

LAC → D ←
supports your business

*We provide IT total solutions
based on advanced security technologies.*

LAC
ともに、イキル

2019年3月期 通期決算説明資料

2019年5月14日

株式会社ラック

1. 2019年3月期 通期決算概要

2. 中期経営計画『TRY 2021 ステージ2』の進捗

3. 2020年3月期 連結業績予想

4. 補足資料

売上高は微増、当期純利益は大幅増益

(百万円)

科目	'18年3月期 通期実績	'19年3月期 通期実績	前期比増減	
			増減額	増減率(%)
売上高	38,432	38,719	+286	+0.7
営業利益	2,224	2,366	+142	+6.4
営業利益率%	5.8	6.1	+0.3p	-
経常利益	2,349	2,411	+61	+2.6
経常利益率%	6.1	6.2	+0.1p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,252	1,547	+294	+23.5
自己資本当期純利益率（ROE）%	12.7	14.5	+1.8p	-

- (注) 1. 当連結会計年度より、2018年4月2日に連結子会社化した(株)アジアリンクを連結業績に組み入れております。
 2. 当第3四半期に、持分法適用関連会社株式の一部売却による投資有価証券売却益（39百万円）を計上しています。

SSS事業は大幅に増収増益、SIS事業は減収増益

（百万円）

売上高	'18年3月期 通期実績	'19年3月期 通期実績	前期比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業※	13,333	15,337	+2,004	+15.0
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	25,099	23,381	△1,717	△6.8
合計	38,432	38,719	+286	+0.7

（百万円）

セグメント利益	'18年3月期 通期実績	'19年3月期 通期実績	前期比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業※	2,239	2,632	+393	+17.5
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	2,623	2,800	+176	+6.7
全社共通費用	△2,639	△3,066	△427	-
合計	2,224	2,366	+142	+6.4

※当連結会計年度より、(株)アジアリンクの業績が組み入れられております。

運用監視、診断を中心に大幅増収、利益も大幅に伸長

●コンサルティングサービス

産業制御システム向け案件等のサービスは伸長したものの、前第4四半期に計上した教育関係の大型案件がなく、さらにサイバー攻撃による事故対応を契機とした案件も減少。

●運用監視サービス

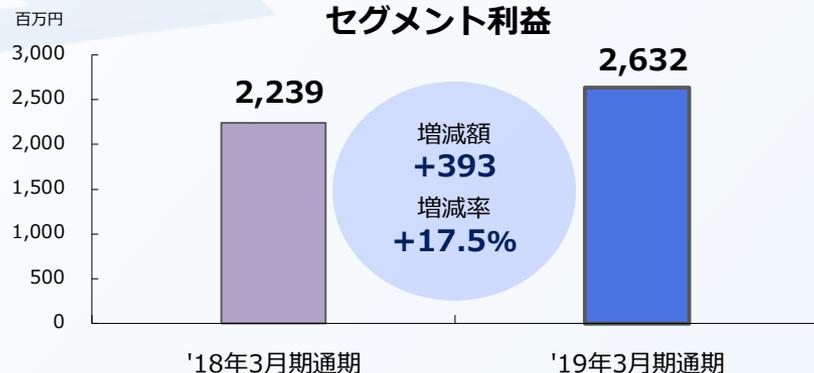
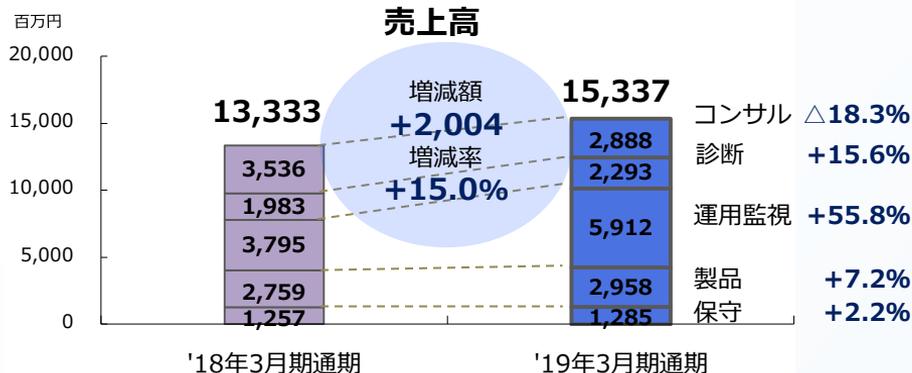
(株)アジアリンクの組み入れ、前第3四半期から開始した中部地域大手製造業向け運用監視サービス拡大により伸長。既存案件の契約更新も堅調に推移。

●診断サービス

主力のWebアプリケーション診断や、スマートフォンアプリケーション診断が好調であったことに加え、常駐型案件も拡大。

●製品販売

サービス妨害型攻撃に対応した製品等の販売が拡大



HW/SW販売の減や仕掛増などで減収、のれん償却額負担減等もあり増益

● 開発サービス

旅行業や人材派遣業など銀行業以外の案件は好調に推移したものの、中核であった大手銀行業向けが大幅減、(株)日本貿易保険向け案件の仕掛が増加

● IT保守サービス

前期のHW/SW販売が低調であったものの、契約更新の案件増などにより増収

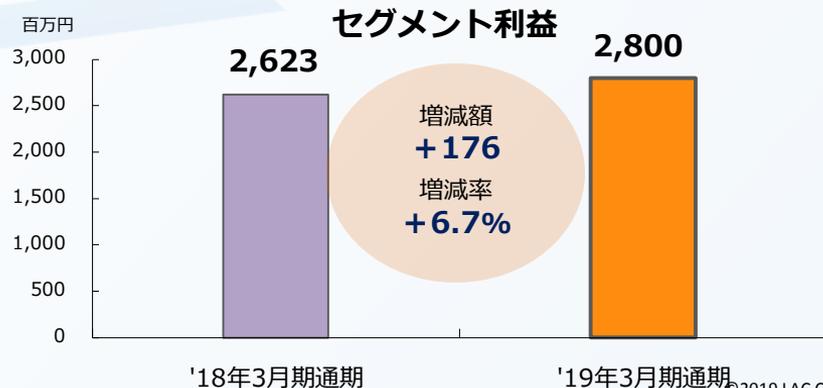
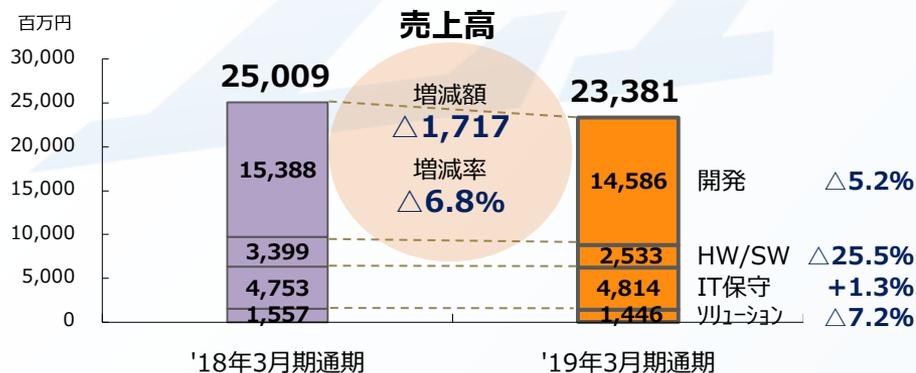
● HW/SW販売

クラウドサービスの急拡大などによって想定した以上に需要が縮小したことにより大幅減収

● ソリューションサービス

アプリケーションパフォーマンス管理ソリューションの売上減により減収

のれん償却額負担減など販管費の減もあり、セグメント利益は増益



売上高は、HW/SW販売で案件獲得の進捗が大きく下回ったこと、
開発サービスの大型案件の仕掛増等により、予想を下回る
営業利益も、販管費の抑制などあるものの予想を下回る

(百万円)

科目	'19年3月期 通期予想	'19年3月期 通期実績	予想比増減	
			増減額	増減率(%)
売上高	43,400	38,719	△4,680	△10.8
営業利益	2,500	2,366	△133	△5.3
営業利益率%	5.8	6.1	+0.3p	-
経常利益	2,550	2,411	△138	△5.4
経常利益率%	5.9	6.2	+0.3p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,740	1,547	△192	△11.1
自己資本当期純利益率（ROE）%	16.1	14.5	△1.6 p	-

売上高は両セグメントとも予想を下回る SSS事業の利益は予想を上回る

（百万円）

売上高	'19年3月期 通期予想	'19年3月期 通期実績	予想比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	16,700	15,337	△1,362	△8.2
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	26,700	23,381	△3,318	△12.4
合計	43,400	38,719	△4,680	△10.8

（百万円）

セグメント利益	'19年3月期 通期予想	'19年3月期 通期実績	予想比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	2,570	2,632	+62	+2.4
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	3,200	2,800	△399	△12.5
全社共通費用	△3,270	△3,066	+203	-
合計	2,500	2,366	△133	△5.3

事業上の必要資金を確保しつつ、引き続き安定した財務基盤を維持

(百万円)

科目	'18年3月期末	'19年3月期末	前期末比 増減
資産合計	19,909	22,613	+2,703
流動資産	14,641	16,464	+1,822
固定資産	5,268	6,148	+880
負債合計	9,817	11,308	+1,490
流動負債	9,624	9,632	+8
固定負債	193	1,675	+1,482
純資産合計	10,092	11,305	+1,212
現預金	5,103	4,343	△760
有利子負債	739	2,351	+1,611
自己資本比率	50.7%	50.0%	△0.7p

増減ポイント

資産

【流動資産】

- ・仕掛品の増加 +1,053
- ・受取手形及び売掛金の増加 +747
- ・前払費用の増加 +741
- ・現金及び預金の減少 △760

【固定資産】

- ・のれんの増加 +497
- ・建設仮勘定の増加 +258

負債

【流動負債】

- ・未払金の増加 +385
- ・買掛金の減少 △265

【固定負債】

- ・長期借入金の増加 +1,468

純資産

【純資産】

- ・利益剰余金の増加 +977
- ・資本剰余金の増加 +191

償却前利益は前期並みを確保したものの 運転資本要因により営業キャッシュ・フローは振るわず

(百万円)

科目	'18年3月期 通期実績	'19年3月期 通期実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,451	△633
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,907	△868
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,409	747
フリーキャッシュ・フロー	1,543	△1,502
現金および現金同等物の増減額 (△は減少)	134	△760
現金および現金同等物期首残高	4,969	5,103
現金および現金同等物期末残高	5,103	4,343

発生ポイント

営業キャッシュ・フロー

・ 税前当期純利益	2,449
・ 減価償却費	608
・ のれん償却額	225
・ 売上債権の増加額	△568
・ たな卸資産の増加額	△1,046
・ その他の流動資産の増加額	△737
・ 仕入債務の減少額	△329
・ 法人税等の支払額	△975

投資キャッシュ・フロー

・ 連結範囲の変更を伴う 子会社株式取得による支出	△248
・ 有形固定資産の取得による支出	△391
・ ソフトウェアの取得による支出	△376

財務キャッシュ・フロー

・ 長期借入金の返済による支出	△716
・ 長期借入れによる収入	2,200
・ 配当金の支払額	△543

1. 2019年3月期 通期決算概要

2. 中期経営計画『TRY 2021
ステージ2』の進捗

3. 2020年3月期 連結業績予想

4. 補足資料

製販一体による事業部制の推進

- 業界特性に応じてお客様の課題解決に対応する事業部の設置
- 各セグメントの収益責任を持つ事業統括部の設置
- 柔軟なシステム開発を可能とする「アジャイル開発センター」の設置



製販一体で対応する事業部制（2018年4月～）



※ □ は事業部

セキュリティ事業のサービスメニューの充実

次の事業基盤となるスレットインテリジェンス（脅威情報）サービスへの対応

- ダークウェブ等の脅威対応が可能な「Threat Landscape Advisory サービス」提供
- クラウド上でセキュリティ侵害とマルウェアを判定する「FalconNest」提供

クロスセル、アップ・ダウンセルによる監視サービス拡充

- サイバー保険を付帯した「事故補償パック for JSOC®」提供
- Web通信の暗号可視化ゾーン構築サービス「SeeLAC」提供
- 低価格の監視サービスを実現するサービス基盤「CloudFalcon」提供

IoT市場向けサービスの強化

- IoT機器のセキュリティ診断サービスのメニュー化
- 産業制御システム向けリスクアセスメントサービスのメニュー化

パートナーシップの強化

合併会社による事業強化

- KDDI(株)との合併会社「KDDIデジタルセキュリティ(株)」の事業開始（ラック出資比率49%）



KDDI(株)グループとグループ顧客向けに
運用・監視などのセキュリティサービスを提供

事業強化に向けた協業等の推進

- TIS(株)とエンタープライズ向けクラウド&セキュリティの領域で協業
- NEC APAC社とAPAC地域のセキュリティビジネスで協業
- NISCとサイバーセキュリティの分野で連携・協力

※ NISC : 内閣サイバーセキュリティセンター



NISC前田センター長（右）とラック社長
西本（左）（NISCにて）

拠点拡充など体制強化

拠点の拡充

- ASEAN市場拡大の起点となるシンガポール支店の設置
同支店を拠点としてNEC APAC社との協業を推進
- 地域の人材確保と事業展開の一環として
「ラックテクノセンター北九州」開設



2018年8月1日に実施された、
北九州市市役所本庁舎での記者会見
北九州市 北橋市長（右）、ラック社長 西本（左）

ガバナンス体制の強化

- 営業活動のモニタリング機能を強化した「審査部」の設置
全社統制機能として案件審査を実施しリスクを判断
- リスク管理の機能強化
「リスク統括委員会」の下、基幹・事業運営・コンプライアンスのリスク分科会を
傘下に置く体制による管理体制の強化

1. 2019年3月期 通期決算概要
2. 中期経営計画『TRY 2021
ステージ2』の進捗
- 3. 2020年3月期 連結業績予想**
4. 補足資料

次に実現される社会 「Society5.0」 ITにより経済発展と社会的課題の解決を両立



人手不足



働き方改革

クラウドやAI、IoTなどを活用し
働き手は「人」から「システム」へ

Cloud

IoT

AI

RPA



ITシステムの老朽化



サービスの多様化

クラウド化など「デジタルトランスフォーメーション（攻めのIT投資）」は拡大

サイバー空間におけるセキュアなIT運用は必須に

デジタルトランスフォーメーションと連動しセキュリティ対策需要も拡大

事業部制の更なる強化

- 課題解決型のソリューション強化に向け、セキュリティのコンサルティング機能を各事業部へ組み込み、SIとセキュリティの一体運営を推進
- 事業統括部を、事業戦略の立案、商品企画・開発、品質管理などを担う機能へと強化

2019年3月期



(新) 2020年3月期 (4月1日～)



※ □ は事業部

デジタルトランスフォーメーション・働き方改革の推進

●デジタルトランスフォーメーションの推進

- ・次世代ERPを活用した社内基幹システムの刷新
- ・クラウドを徹底活用した業務推進
〔 営業支援ツール導入、社内IT環境の改善、
各種社内コミュニケーションツール導入など 〕



●働き方改革の推進

- ・社内人材の育成・活用の推進
- ・ベテランエンジニアの多面的活用の推進
- ・時代の変化に対応した受注契約条件の見直し

●事業拡大に向けた拠点拡充

- ・SIサービス拠点として東陽町オフィス開設（2019年5月）
- ・人材確保に向けた継続的な地域戦略の推進



東陽町オフィス

ビル名：東陽駅前ビル
住 所：東京都江東区東陽2-2-20
場 所：2F (2,506㎡)

※ERP（Enterprise Resource Planning）：総務、会計、人事、生産、在庫、購買、物流、販売などの基幹情報や経営資源を、統合的かつリアルタイムに処理する基幹業務システムを構築し、効率的な経営を図る経営手法。

スレットインテリジェンス（脅威情報）を活用したサービス拡大

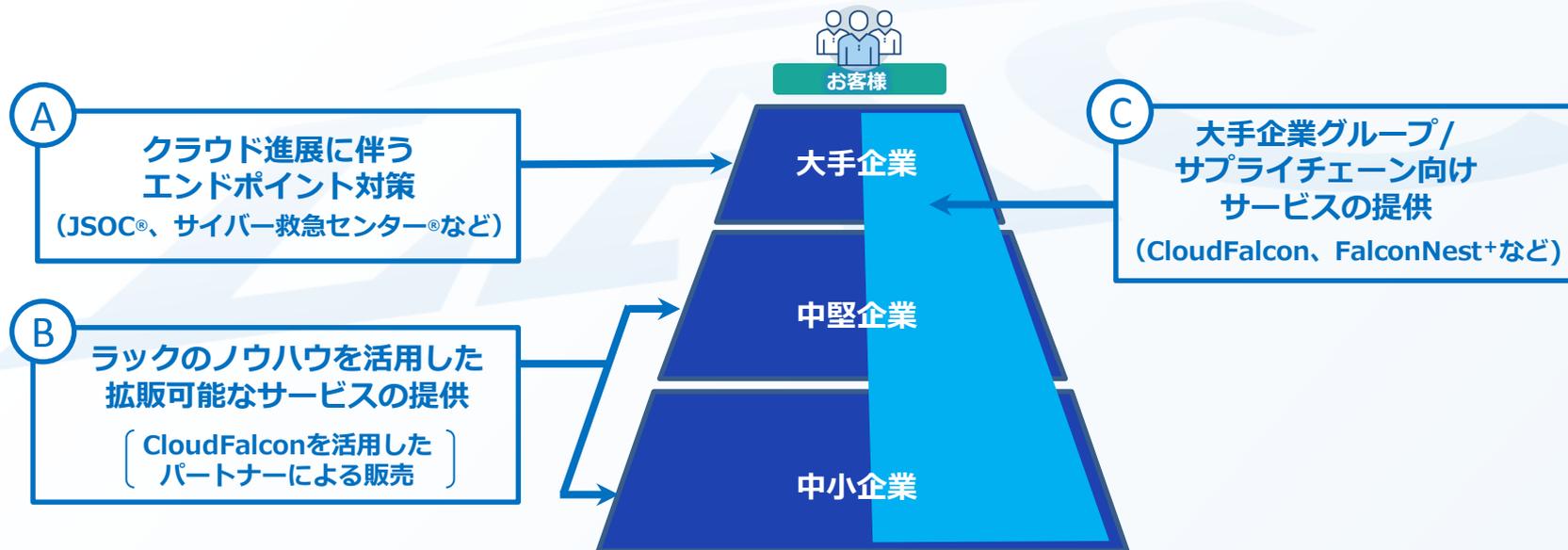
● 独自サービス基盤により得られる脅威情報の活用（競争力の源泉）

CloudFalcon、FalconNest、JLISTなどによるセキュリティ対策の支援



大手から中堅・中小までマーケットに応じたサービス展開

- ① クラウドが進展する大手企業向けにエンドポイントセキュリティ対策の推進
- ② 拡販可能なサービスによる中堅・中小企業向けサービスの拡大
- ③ グループ企業/サプライチェーン向けのサービスの拡大



お客様のデジタルトランスフォーメーションを支援するITソリューションの提供

- アジャイル開発センターを軸として、顧客課題へ柔軟に対応するSI事業への変革
- IoTの導入やAIの徹底活用など「攻めのIT投資」による、金融・エンタープライズ案件獲得への注力
- セキュリティ顧客とのクロスセルによる案件の拡大



デジタルトランス
フォーメーション



お客様



働き方改革

ITソリューションの提供

クラウド活用の開発支援

実績のあるAWS、Azureに加え、
IBMクラウドを含めた
マルチクラウドへの対応

アジャイル開発 DevSecOpsの導入支援

独自のセキュリティノウハウを実装し、
アプリケーション開発から
運用までライフサイクル支援

企業生産性向上の支援

キラーツールを活用した
新たな価値の提供
(例：リモート接続ツール「TeamViewer」)



アジャイル開発センター

各事業部のアジャイル開発案件に参画し、顧客課題に柔軟に対応できる体制に変革

※DevSecOps：DevOpsは開発（Development）部門と運用（Operations）部門が連携して開発する手法で、これにセキュリティも連携し実装させる手法のこと。

売上高は大幅増を見込む。利益は社内基幹システムや拠点拡充など 将来の成長に向けた投資を行うため、小幅増益に留まる見込み

(百万円)

科目	'19年3月期 通期実績	'20年3月期 通期予想	前期比増減	
			増減額	増減率(%)
売上高	38,719	44,000	+5,280	+13.6
営業利益	2,366	2,500	+133	+5.7
営業利益率%	6.1	5.8	△0.4 p	-
経常利益	2,411	2,530	+118	+4.9
経常利益率%	6.2	5.8	△0.4 p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,547	1,700	+152	+9.9
自己資本当期純利益率(ROE)%	14.5	14.0	△0.5 p	-

- (注) 1. 中間業績予想につきましては、情報サービス業界は売上高・利益が下期偏重となる傾向にあり、当社も例年その傾向が表れ、短期的に業績が大きく変動する可能性等があることから開示しないこととしました。
2. (株)日本貿易保険との契約に関わる2019年3月期の仕掛分については、同社との協議には時間がかかることも予想されることから上記通期業績予想には含んでおりません。

SSS事業、SIS事業ともに増収増益を見込む

（百万円）

売上高	'19年3月期 通期実績	'20年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	15,337	18,000	+2,662	+17.4
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	23,381	26,000	+2,618	+11.2
合計	38,719	44,000	+5,281	+13.6

（百万円）

セグメント利益	'19年3月期 通期実績	'20年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	2,632	3,150	+517	+19.7
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	2,800	3,500	+699	+25.0
全社共通費用	△3,066	△4,150	△1,083	△35.0
合計	2,366	2,500	+133	+5.7

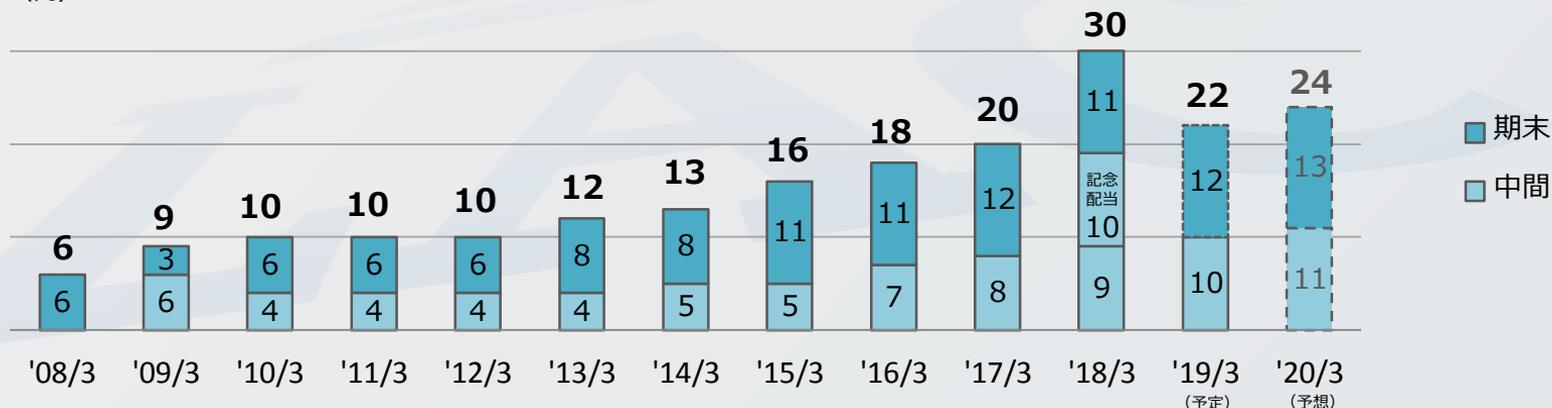
年間配当は前期22円の予定、今期24円の予想

配当方針

- 長期的かつ安定的に保有いただくことを目的に、継続的に安定した配当水準を維持
- 基本指標はDOE（株主資本配当率）5%

配当金

(円)



DOE

'08/3	2.8%	4.2%	5.1%	5.2%	4.8%	5.2%	5.0%	5.5%	5.5%	5.5%	5.1%	5.2%	5.2%
-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

(記念配当を除く)

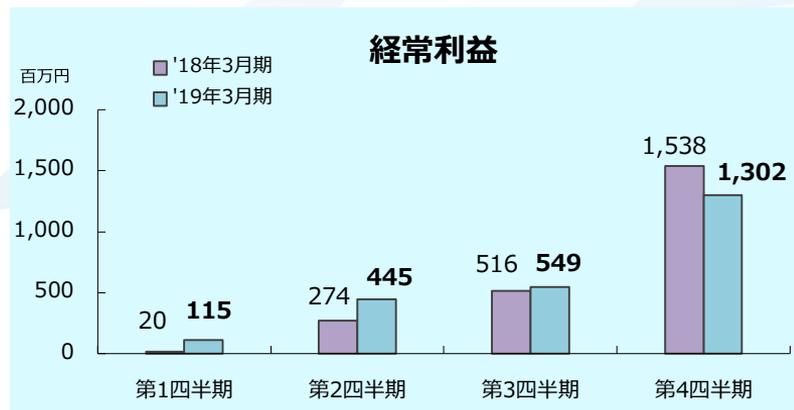
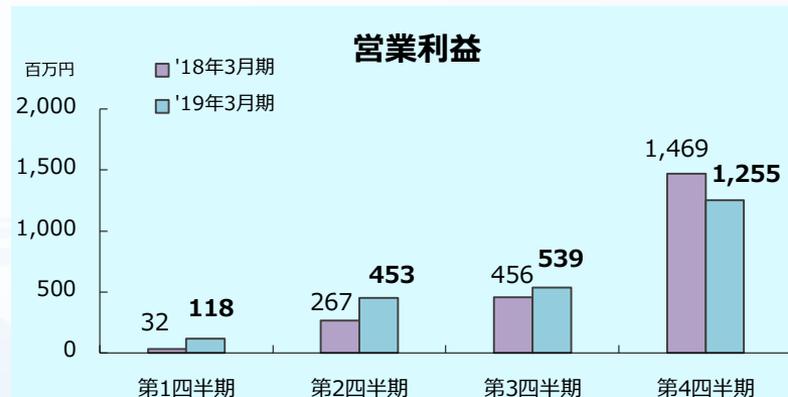
(ご参考)配当性向

'08/3	18.2%	98.7%	-	38.9%	45.0%	34.3%	32.7%	32.3%	31.6%	34.0%	40.5%	36.3%	36.1%
-------	-------	-------	---	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

(記念配当を除く)

1. 2019年3月期 通期決算概要
2. 中期経営計画『TRY 2021
ステージ2』の進捗
3. 2020年3月期 連結業績予想
4. 補足資料

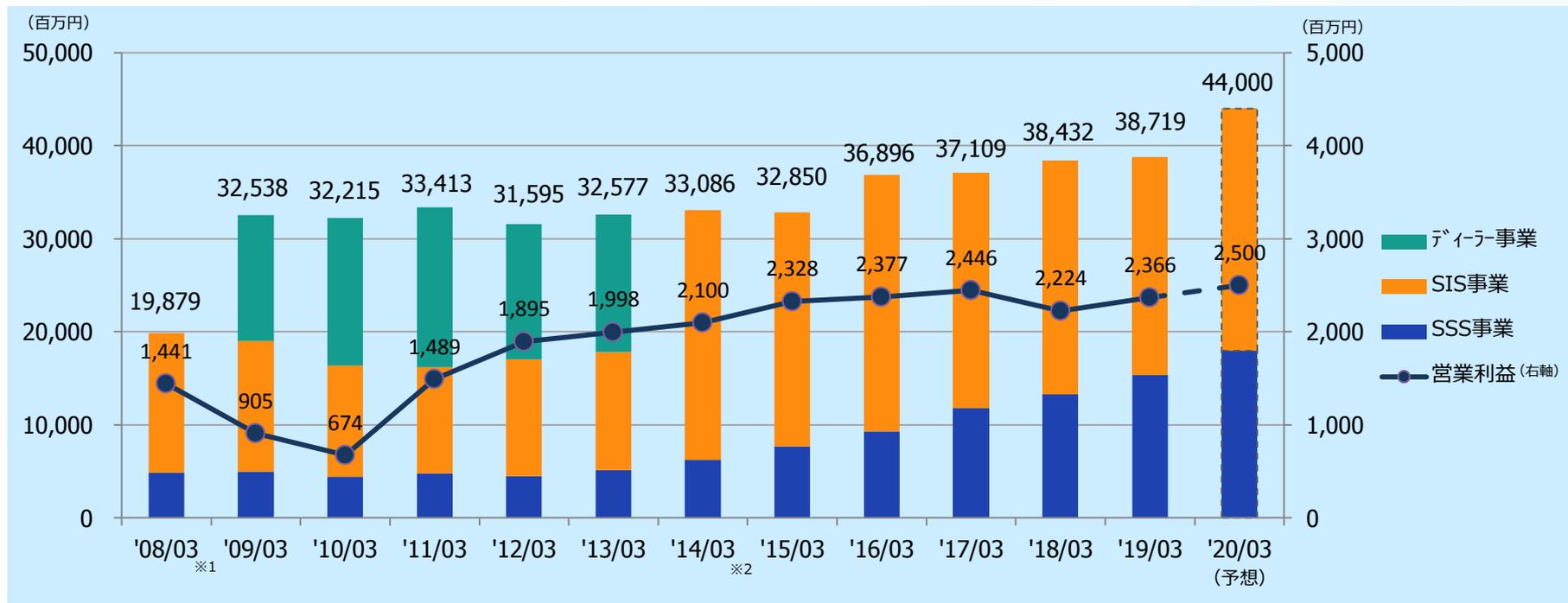
前年同期比



連結従業員数の推移



- ※1 2018年3月期より、定年再雇用の増加や契約の長期化などを鑑み、契約社員を含めた基準に変更しています。加えて、主に管理部門において、関連する業務に沿った事業区分に見直しています。なお、SSS、SISの両事業に携わる従業員について、稼動状況を踏まえた区分としております。2017年3月末の人員数は同基準により遡及して算出していますが、2016年3月末以前については従来基準の従業員数となっています。
- ※2 2019年3月期以降のSSS事業における連結従業員数は、2018年4月2日に子会社化した(株)アジアリンクの従業員が含まれています。



※1 旧ラックとA&Iの経営統合初年度である'08年3月期の業績には、旧ラックが決算期を12月から3月に変更したことから旧ラックは'07年1月1日～'08年3月31日までの15ヶ月決算を反映していますが、本資料では、同一期間で比較するため'07年1月1日から'07年3月31日までの旧ラックの個別業績（売上高2,019百万円、営業利益329百万円）を差し引き、1年換算とした場合の想定実績で記載しています。

※2 事業セグメントの変更は'15年3月期からですが、セグメント別の業績を比較するため、その前年度である'14年3月期も同条件で組み替えた場合の想定実績で記載しています。

2020年3月期 セグメント別業績予想（通期）



（百万円）

売上高	'19年3月期		'20年3月期		前期比	
	通期実績	構成比%	通期予想	構成比%	増減額	増減率%
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	15,337	39.6	18,000	40.9	+2,662	+17.4
セキュリティコンサルティングサービス	2,888	7.5	3,580	8.1	+691	+23.9
セキュリティ診断サービス	2,293	5.9	2,540	5.8	+246	+10.8
セキュリティ運用監視サービス	5,912	15.3	7,010	15.9	+1,097	+18.6
セキュリティ製品販売	2,958	7.6	3,870	8.8	+911	+30.8
セキュリティ保守サービス	1,285	3.3	1,000	2.2	△285	△22.2
システムインテグレーションサービス(SIS)事業	23,381	60.4	26,000	59.1	+2,618	+11.2
開発サービス	14,586	37.8	17,240	39.2	+2,653	+18.2
HW/SW販売	2,533	6.5	3,060	7.0	+526	+20.8
IT保守サービス	4,814	12.4	4,000	9.1	△814	△16.9
ソリューションサービス	1,446	3.7	1,700	3.8	+253	+17.5
合計	38,719	100.0	44,000	100.0	+5,281	+13.6

■ IoTセキュリティ診断サービス開始（2018年5月）

工場やオフィスなどで導入が進んでいる多種多様なIoT機器に対し、ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークに至るまで総合的な脆弱性診断を実施。

主な特徴

- ・ IoT機器の動作環境に応じ、最適な診断項目を選択
- ・ ラック独自の最新のIoTセキュリティ情報を活用した診断手法
- ・ 各種IoTセキュリティガイドに適応したセキュリティレベルを確保

■ シンガポール支店を設立（2018年7月）

ASEAN地域で成長を目指す日系企業の事業展開を、セキュリティ対策で支援する起点として開設。

名 称	(株)ラック シンガポール支店
所在地	80 Robinson Road #10-01A Singapore 068898
開設日	2018年7月1日
業務内容	ASEAN地域でのサイバーセキュリティサービスの提供

■ 脅威情報(スレットインテリジェンス)提供サービスを開始 (2018年8月)

セキュリティ監視、マルウェア分析、技術研究の3つの精鋭部門における膨大な知見をまとめてデータベース化し、独自の脅威情報「JLIST」として提供。

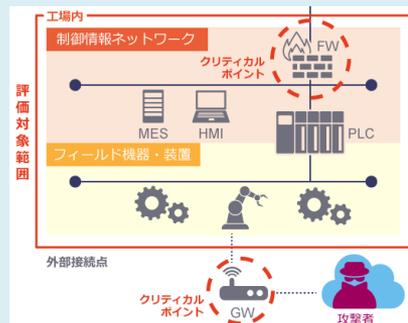
これにより、最新の脅威や日本特有のサイバー攻撃の脅威に対し、市販のセキュリティ対策製品の防御能力を飛躍的に向上。



■ 産業制御システム向けリスクアセスメントサービスを開始 (2018年8月)

工場におけるネットワーク化された制御系システムに対し、サイバーセキュリティリスクを総合評価。

不正アクセスやウイルス感染等による機器の誤動作や工場の稼働停止など産業制御システム特有のセキュリティリスクに最適な対策を講じることができ、ネットワーク化された工場の安全に貢献。



■ ラックを代表する監視サービス「JSOC®」にサイバー保険を付帯（2018年10月）

ラックを代表するセキュリティ監視サービス「JSOC® マネージド・セキュリティ・サービス」にサイバー保険を付帯した国内初のパッケージ商品、『事故補償パック for JSOC』の提供を開始。

サイバー攻撃への「守り」と「備え」を一体で提供。



■ 低価格な監視サービスを実現する「CloudFalcon」を提供（2018年10月）

セキュリティアナリストによる高度な監視サービス「JSOC® マネージド・セキュリティ・サービス」のノウハウを投入した、自動セキュリティ監視システム「CloudFalcon（クラウドファルコン）」を新規開発し提供を開始。

専門のセキュリティアナリストの判断を要せずに、高度で高品質なセキュリティ監視ができ、クラウド上でシステム稼働させることにより費用・運用負荷の大幅低減も実現。

■ セキュリティ調査ツール「FalconNest」を無料公開（2018年11月）

企業のセキュリティ対応部門が独自にサイバー攻撃の痕跡確認やマルウェアの判定を手軽に行える「FalconNest（ファルコンネスト）」を無料公開。

セキュリティ侵害とマルウェアの判定をクラウドで提供。



■ NISCとサイバーセキュリティ分野で連携・協力（2018年12月）

内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）とサイバーセキュリティの分野の連携・協力に関する基本合意書を締結。

2020年12月31日までの期間において、NISCにサイバーセキュリティ分野の脅威情報等を提供することで、サイバーセキュリティ対処調整センターとの連携・協力関係を強化。



NISC前田センター長（右）と西本で合意（NISCにて）

■ 「ラックテクノセンター北九州」を開設（2019年1月）

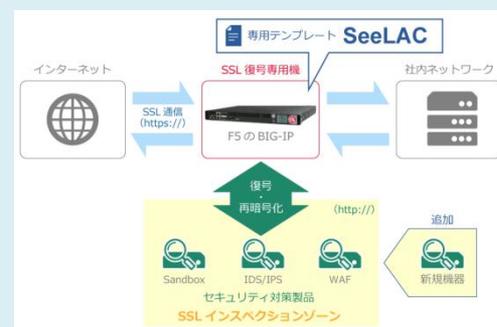
セキュリティ事業における地域の技術拠点となる「ラックテクノセンター[®]」を北九州市に開設。

主にセキュリティ監視センター「JSOC[®]」の基幹システム「LAC Falcon[®]」の開発および保守機能の一部を担う。北九州地域の人材採用を拡大し、セキュリティ技術者の育成を計画。

名 称	ラックテクノセンター北九州
所 在 地	福岡県北九州市小倉北区
面 積	約308㎡（約93坪）
開 設 日	2019年1月
運営開始日	2019年4月
従業員数	15名（2019年4月時点）

■ 「SeeLAC」を共同開発し、暗号可視化ゾーン構築サービスを開始（2019年3月）

Webサイトの常時暗号化（SSL化）により従来のセキュリティ対策が無効になってしまうという課題に対し、テクマトリックス（株）と共同で「SeeLAC（シーラック）」を開発し、暗号通信を一時的に復号ならびに再暗号化を行う「SSL可視化ゾーン」構築サービスの提供を開始。



■ NEC Asia Pacific社とAPAC地域のセキュリティ事業で協業（2019年3月）

NEC Asia Pacific社と、APAC地域のサイバーセキュリティ分野で協業することに合意。

NEC APACと共同で、中堅・中小企業を対象とした高度セキュリティ監視サービスを2019年末までに提供開始予定。さらに両社はサイバーセキュリティトレーニングサービスをAPAC地域のお客様に提供する予定。

■ 「Threat Landscape Advisoryサービス」開始（2019年4月）

検索エンジンなどに収集されない、いわゆるダークウェブなどに流出している情報を専門のアナリストが高度分析し、潜在的な脅威への対応を可能とする「Threat Landscape Advisoryサービス」を提供開始。

脅威インテリジェンスサービス「Recorded Future」を活用し、脅威情報に対する高度な知見を持つアナリストが、企業の潜在的な脅威やリスク、犯罪者の動向を把握し、被害を未然に防ぐ。

■ 「TeamViewer」によるリモート接続ソリューションで支援（2019年4月）

業務の効率化や働き方の多様化といった業務変革に取り組む企業に対し、セキュアで効果的なリモート接続ソリューションを活用した支援を行うため、TeamViewerジャパン(株)との包括的なパートナー契約を締結し、協業を開始。

リモート接続製品「TeamViewer」に、ラックのセキュリティ対策の知見を活用することで、安全にリモート接続ソリューションを提供することが可能。

■ TISとクラウドおよびセキュリティ領域で協業（2019年5月）

TIS(株)と、クラウドサービスおよびセキュリティサービスの領域において協業。

マルチクラウド分野で豊富な実績とノウハウを持つTISとセキュリティ分野において業界屈指の知見を有するラックの双方の強みを活かし、金融、製造・サービスなどのエンタープライズ企業および公共分野向けにサービスを共同で展開。



- ※ 本資料は2019年5月現在の情報に基づいて作成しており、記載内容は予告なく変更される場合があります。
- ※ LAC、ラック、JSOC、サイバー救急センターは株式会社ラックの登録商標です。
- ※ その他記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。

株式会社ラック

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-1
平河町森タワー
Tel 03-6757-0107 Fax 03-6757-0101
ir@lac.co.jp
www.lac.co.jp